

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立武雄北中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上や心の教育や健康・体づくりは全職員が改善点を共有し、問題解決するための手立てを「継続と徹底」していくことを意識して実施する。 ・保護者や地域の方に生徒ががんばっていることや学校が熱心に取り組んでいることをアピールするにはどんな方法があるか対策を考える。 ・働き方改革のために学校の行事をコンパクトに、業務の負担を最小限にしたいと考えている。しかし、学校行事や育友会行事、地域行事がコロナ前と同じぐらいに復活してきている。地域・保護者・生徒のニーズを把握し、精選することが大切だと考える。
2 学校教育目標	「志をもちゆめ実現を目指す人」「自ら学びを求める人」「心身ともに健康な人」

3 本年度の重点目標	1 生徒会活動など自主的な活動の活性化	2 丁寧な進路指導と学習意欲の醸成
------------	---------------------	-------------------

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ・家庭学習の定着を目指した取り組みの実践	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のため、ICT機器を利活用したり、他者とかかわる活動を仲間だと回答した教員が80%以上 ○フォーサイトを利用した家庭学習に関するアンケートに肯定的な回答をした生徒60%以上。	B	・授業の学習活動については生徒・保護者アンケートでは高評価。生徒の実感が最も高い。しかしながら、授業と家庭学習を連携させた課題を提示することがあまりできていない。	B	ICT活用や協働的な学びは生徒の9割以上が肯定し、学習定着に確かな成果を上げている。一方で「フォーサイト」による家庭学習の習慣化には課題が残り、生徒の約4割、保護者の約6割が定着を実感できていない。	B	・ICTを活用した振り返りやクラウド上の教材共有を、時代に即した教育活動として肯定的に捉えている。 ・フォーサイトのノートの書く欄を大きくする等の具体的改善をしてはどうか。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒75%以上。	B	・意見を出し合える雰囲気づくりに努め、他者と意見を交流する時間を計画的に設けた授業をしており、生徒は肯定的だが、家庭への理解浸透が課題である。	A	道徳の授業で考えを深める生徒が9割を超え、教職員による承認や行事を通じた達成感が豊かな心を育んでいる。生徒の振り返りでも「思いやり」や「感謝」の記述が多く、確かな成長と成果が見られる。	B	・生徒の確かな成長を認めつつ、保護者との認識の差を埋めるための「道徳だより」の発行を増やすなどの対策をする。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員間での情報共有を確実にし、気になる生徒や変化のあった生徒について、共通理解が図られていると回答した教員が100%。	B	・職員間で情報共有を確実にし、気になる生徒や変化のあった生徒について、共通理解を図っている。組織的な連携が安定している。しかし、現実には不登校は減っていない。 ・教育相談について、講師を招いた研修会を行い、職員の技能向上に努めた。	B	職員間の情報共有は100%実施され、生徒の約97%が「困った時に先生が協力してくれる」と実感している。生徒の9割以上、保護者の8割以上が「不安なく過ごせている」と回答し、組織的対応が成果を上げているが、不登校や教室に入れない生徒が0になってはいないので、生徒や保護者に寄り添う働きかけを続ける。	B	・職員間の情報共有が100%行われている組織的な対応を高く評価し、安心感を持っている。何かしら学校とのつながりを持ち続けられるよう心くばりしてほしい。
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていたと思う」と回答した児童生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	A	・生徒は学校評価アンケートの結果承認されていると感じている。保護者にはもっと周知する必要がある。	A	生徒の約9割が授業や行事を通じ夢や目標を考える機会があったと回答し、記述からも将来を見据えた意欲的な姿勢が伺える。職員による活動の仕組み化も進み、「夢プロジェクト」等の活動も保護者の約9割に認知されており、学校全体で確かな成果を上げている。	A	・生徒の主体的・意欲的な参加を評価している。現状に合わせたHP更新などの実務を確実にしたほうがよい。
●健康・体づくり	○不登校・教室に入れない生徒、学校が楽しくない生徒に寄り添う教育活動	○「学校の中で不安なく過ごしている」と回答した生徒85%以上。	B	・毎朝の健康観察で「先生に相談したいことはありますか？」という質問を設け、小さな相談事にも個別で対応するなど、生徒の不安を取り除くよう努めている。支援の方向性は正しいといえるが、今後も改善を続ける必要がある。 ・モニターでいいこと探しを紹介する。	B	教職員の100%が対象生徒への配慮を実践し、保健室等での個別対応を継続しています。生徒の約92%、保護者の約84%が「不安なく過ごせている」と回答し、自由記述でも「学校が楽しくなった」「登校できるようになった」という成果が見られたが不登校がなくなったわけではないので働きかけを続ける。	B	・「不登校をゼロにすること」よりも、「一人ひとりを大切にし、よりよい、多様な学びを模索する姿勢の継続が大切。
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	③「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	B	・生徒の望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成に努めているが家庭での意識定着が弱い。	A	生徒の9割以上が良好な食習慣や安全意識を持ち、保護者の評価も高い。教職員の指導も概ね徹底されている。生徒から通学路の安全確保やマナー改善を求める具体的要望もあり、継続的な指導が必要。	A	・生徒の意識が高まり、道路に注意を払うようになった点を評価。保護者・地域も雑草の伐採や看板設置で積極的に協力している。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○望ましい生活習慣の形成	○毎日の生活や健康管理に計画的に取り組むために、フォーサイトを活用できたという回答した生徒80%以上。	C	・職員、生徒のフォーサイト活用への意識が低く、行動変容が不十分。保健委員による生活リズムチェックとは、運動時間が短いという弱みを捉え、自転車登校を呼びかけた。	B	生徒の約89%が計画的な健康管理や端末利用を実践し、早起きや3分前行動等の習慣化も自由記述からうかがえる。SNSトラブル防止意識も高く、生活態度の落ち着きという成果が見られたが、まだ課題が残る。	B	・市PTA連合会のSNS啓発チラシ等の効果を認めつつ、地域行事への積極的な参加や元気な挨拶をする生徒の姿を高く評価している。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	B	・働き方改革を進めているが、そのことだけが年次休暇取得を促進しているわけではないとわかった。時間割の見直しなども必要だと思う。	B	教職員の約89%が残業抑制を意識していますが、休暇取得状況には個人差があります。自由記述では校務分掌の整理や行事の精選を求める声が多く、組織的な業務負担の偏り解消が今後の大きな課題と言える。	B	・職員の頑張りや認めつつも、教員不足による業務負担の偏りや多忙感を懸念し、行事の精選をしたほうがよい。
●特別支援教育の充実	○(学校独自重点取組・任意) ・支援が必要な生徒に寄り添える支援体制の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・支援が必要な生徒の共通理解と支援方法の共有ができていたと思う職員が80%以上。	B	・教職員全員で特別支援教育を進める意識を高める改善をする必要がある。 ・月一回の生徒指導協議会や週1回の会議で管理職や学年主任、特別支援コーディネーターと情報共有をしている。	A	教職員の100%が支援が必要な生徒への共通理解と支援方法の共有ができていたと回答している。保健室での個別対応や学習環境の整備など具体的な実践も報告されており、組織的な支援体制が構築されている。	A	・組織的な支援体制が構築されていることを評価。個別の背景を尊重する教育方針への信頼が示された。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○生徒の自主的な活動の活性化	○夢プロジェクトの推進	○武雄北中の一員として、「地域・社会貢献」を考えた「夢プロジェクト」に意欲的に取り組んだと回答した生徒70%以上。	A	・生徒、職員、保護者三者ともバランスよく高評価をしている。	A	生徒の約9割が意欲的に参加し、職員も100%が活動を仕組み、生徒主体の計画・運営を促した。保護者の認知度も約9割と高く、自ら課題を見つけ地域に貢献しようとする自主性が育てられている。	A	・生徒が「楽しそう」に過ごし、地域で元気に挨拶する姿に教育の成果を実感している。
○命に関する教育の充実	○生命に関する教育の充実	○「生命」「性」に関する知識が深まったと回答する生徒80%以上	B	・教育講演会では、保護者も一緒に参観した。生徒は知識が身についたと感じているが保護者周知が必要。	A	生徒の約95%が生命や性への知識深化を実感している、助産師と協働した専門的な指導も成果を上げている。生徒の振り返りでも他者への思いやりが高まり、保護者の肯定評価も8割を超える。	A	・命の大切さとともに、危険に近づかないような知識や心と身体を大切にすることをしっかり学んでほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	○「自律的な学習習慣」の確立と家庭との連携強化 ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学びは高い成果を上げているが、家庭学習の習慣化(「フォーサイト」の活用)には依然として課題が残っている。「手帳の記入欄の改善」などを検討し、生徒がより主体的に計画を立てられる仕組みを整える。 ◎「夢プロジェクト」を核とした地域貢献と安全な環境づくりの推進 生徒の自主的な活動である「夢プロジェクト」は、地域からの信頼も厚く、生徒の社会性を高める重要な教育活動となっている。今年度の反省を活かし、ホームページの情報を現状に合わせて更新するなど、情報発信を適正化する。「通学路の安全確保」については、「地域と共にある安全な学校」を具現化する。 ●持続可能な支援体制の構築と教職員の働き方改革の推進 「一人ひとりを大切に教育」を継続するためにも、校務分掌の整理や行事の精選をさらに進め、教職員がチームとして機能しやすい環境を構築する。生徒へのきめ細かな指導の質を維持・向上させることに直結するため、組織全体での業務効率化を来年度の最優先課題の一つとして取り組みます
----------------	--